

# 高校生を賢い消費者に



公開授業の「買い物ゲーム」で、環境に配慮した商品について話し合う生徒たち(淡路市の県立淡路高で)

## 淡路 県立6校初フォーラム

若者の消費者被害防止などを目的に「ひょうご消費者教育応援協定」を締結している、県立高6校と県消費者団体連絡協議会(幡井政子会長)などが、淡路市の淡路高で「次世代につなぐ消費者教育フォーラム」を初開催。△賢い消費者▽を目指し、同高生徒の公開授業のほか、各校の取り組み報告、意見交換などが行われた。(佐藤直子)

同協定は昨年9月、若者の被害増加などを受け、同協議会と淡路高が初めて締結。今年6月には、▽武庫荘総合高(尼崎市)▽有馬高(三田市)▽千種高(粟市)▽但馬農業高(養父市)▽豊岡総合高(豊岡市)

## 簡易包装、地産地消学ぶ

が続いた。サブタイトルを「高等学校と消費者団体の連携による消費者教育の推進」とした25日のフォーラムには、6校の生徒や県内の消費者団体の代表者ら約80人が参加。淡路高の1年生39人が、環境に配慮した商品や店を選ぶ消費者を意味する「グリーンコンシューマー」について、買い物ゲームを通して学ぶ授業を見学した。授業で39人は、産地と価格、包装状態が書かれた3種類の食材から、「包装がないものを優先」「近くの生産品を選ぶ」などの原則に従い、適切な商品を選択。さらに、「エコバッグを持つ」「旬の物を食べる」ことの大切さを話し合った。

また、各校の生徒や教諭らが、マルチ商法やキャッチセールスなどの契約トラブルを防ぐ学習や、エコパ

ツク啓発活動などの取り組み事例を発表した。意見交換の場で、生徒は「携帯電話の普及などで、高校生は危険な状態にさらされている。消費者生活センターなどの利用啓発を」と発言。教諭からは「トラブルに遭わないように教育した上で、巻き込まれた場合の対処法も教える必要がある」との意見があった。

千種高2年の堂場祥平さん(17)は「エコバッグの啓発活動は、自分たちも取り組んでみたいと思った。学んだことを周囲の人たちに広めたい」と話していた。

県生活科学総合センター(神戸市)によると、県内の消費生活相談窓口に寄せられる高校生からの相談件数は、2009年度119件、10年度115件。このうち、インターネット関係のトラブルが最多で、9割近くを上る。幡井会長は「この教育は人づくりにもつながる。連携して強い、賢い消費者を育てたい」と話していた。

# 若者に消費者教育を

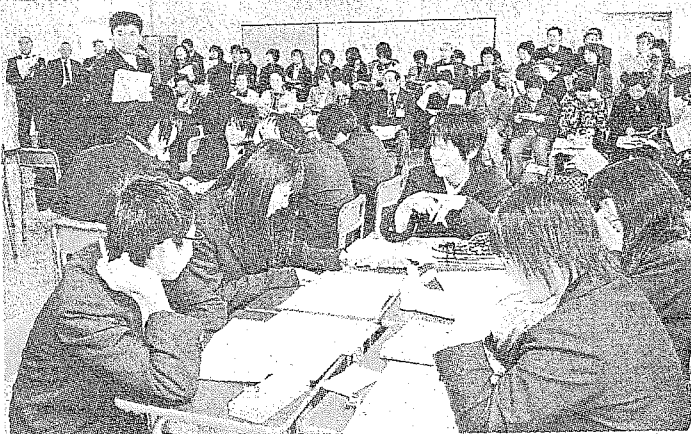
## 淡路高 6高校の取り組み発表

若者の消費者トラブルを防ごうと、高校生と消費者団体が連携して考える「次世代につながる消費者教育フォーラム」が25日、淡路市の淡路高校であった。県消費者団体連絡協議会と消費者教育応援協定を結ぶ6高校の代表約80人が、それぞれの取り組みを発表し、活動

の普及について意見を交わした。

同協議会は、携帯電話やインターネットでの架空請求、キャッチセールスなど若者が消費者トラブルに巻き込まれることが増えているため、昨年から今年にかけて6校と協定を結び連携している。

フォーラムでは、淡路高校1年生が受ける消費者教育の公開授業を見学。環境に配慮した商品やお店を選ぶ「グリーンコミュニティ」を目標とし、バック入りや量り売り、袋入りやばら売りなどの食材の中から賢く買い物する方法を学んだ。取り組み発表では、文化祭や街角での寸劇による啓発、大型店舗でのマ



フォーラム参加者が見学した消費生活について学ぶ公開授業＝淡路高校

イバッグ運動呼び掛けなどを報告。同協議会の幡井政子会長は「消費者教育は人づくり。知識だけでなく実践、体験することで知恵として身に付けてほしい」と激励した。

淡路高校2年の藤本真央さん(17)は「自分も消費者であることを自覚し、学んだことを地域に広めていきたい」と話していた。(後藤亮平)

# 環境への配慮 次世代につながる

## 淡路高で初の「消費者教育フォーラム」

環境に配慮した消費生活について考える「次世代につながる消費者教育フォーラム」が25日、淡路市富島の県立淡路高校で開かれた。県と「ひよつご消費者教育応援協定」を締結した県立高校6校による初めてのフォーラムで、食品の望ましい選び方を学ぶ公開授業などが行われた。

同校は昨年9月、県と同協定を締結。食の安全安心について学んだり、家庭用品の価格調査などを実践している。今年6月には県立武庫荘総合高(尾崎市)、有馬高(三田市)、千種高(宍粟市)、但馬農業高(養父市)、豊岡総合高(豊岡市)も加わり、現在は計6校が消費生活を考える授業に取り組んでいる。

この日は、各校の代表生徒や県消費者団体連絡協議

会の会員らが淡路高を訪問した。1年3組では公開授業が行われ、約40人の生徒がカレーを作る際に環境に負担をかけないことを考えて、スーパーでどのような食材を選ぶべきかを班ごとに討論。ごみの量を減らすため、パック入りではなく量り売りの牛肉を選ぶことや、配送コストを抑えるため、地元産の野菜を選ぶ「地産地消」の重要性などを学んだ。

その後、各校の生徒が日ごろ授業で取り組んでいる買い物へのマイバッグ持参の啓発運動や、悪質な訪問販売の防止キャンペーンなどを発表し合った。

授業を受けた森静哉君(16)は「普段の授業では習わない内容で、とてもおもしろかった」と話していた。



環境に配慮した買い物について学んだ公開授業＝25日、淡路市富島の県立淡路高